

# 中学校

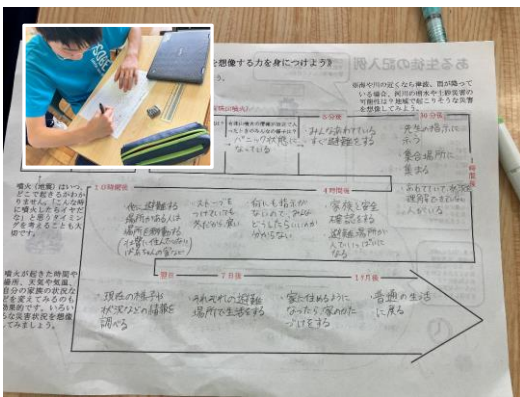
## 噴火に対する備えと

### 火山の恩恵を学ぶ防災学習

#### 子どもたちの学び

- 噴火を想定した避難訓練を通して、自分で判断して防災・減災行動を取ることを学びました。
- 指定避難所への避難を通して、災害時の具体的な行動や対策を考えることができました。
- 昭和新山、有珠山の噴火の歴史等を学び、火山に対する理解やその恩恵を知ることができました。

#### 実践① 噴火による災害の状況を想像し、的確に判断し対応する力を身に付ける。



考えられる噴火直後からの取るべき行動を時系列で整理し、災害時における最善の対応（行動）を考えることができるようにする。

- ・ 実地学習で学んだ過去の噴火を振り返る。
- ・ 噴火発生から一定時間ごとの状況を想像し、自分なりの対応案を考える。

#### ●指導のポイント

- ・ 噴火の発生時期を厳冬期など対応が困難な状況を想定して的確な判断ができるようにする。
- ・ 家族の状況なども考えさせ、家族と行動の在り方を事前に決めておくことの必要性を理解させる。

#### 実践② 指定避難場所へ災害用バスで移動する訓練を通して、具体的な避難行動を学ぶ。



地元の消防署員から、噴火による避難時の基本的な行動について学び、安全の確保を重視した行動が確実に行えるようにする。

- ・ 消防署員の話聞き、基本的な避難行動を学ぶ。
- ・ ヘルメットやゴーグル等の正しく素早い着用の仕方を確認する。

#### ●指導のポイント

- ・ 避難する際に各自が意識することや、避難途中で想定される危険について考えられるようにする。
- ・ ヘルメット等の避難グッズの正しい使用方法を理解させる。

#### 実践③ 火山の噴火の歴史を学び、防災意識の高揚と火山の恩恵について再確認する。



昭和新山と有珠山の噴火の歴史やその恩恵を学び、火山とともに生きていくために意識すべきことを考えることができるようにする。

- ・ 町職員の話聞き、噴火の歴史について学ぶ。
- ・ 温泉や火山灰土壌を生かした農業など、噴火の恩恵についても学ぶ。

#### ●指導のポイント

- ・ いつ噴火が起きてもおかしくないことを再認識させ、備えの必要性について理解させる。
- ・ 防災意識を高めるとともに火山の恩恵についても理解できるようにする。

## ●学習指導案

学 校 名	壮警町立壮警中学校		
対象学年・学級	全 学 年	対 象 生 徒 数	46 名
科目／単元名	学級活動「災害状況を想像する力を身に付けよう」		

### 1 本時のねらい

- 災害から身を守るために、噴火に対する意識を高め、状況に応じた確かな判断ができる。
- 実際の噴火を想定し、日常的に家族等と対応（行動）の在り方等を決めておくことの大切さに気付く。

### 2 評価の観点

- 噴火による周囲の状況を想像しながら、安全確保を第一にした対応（行動）策を考えている。
- 災害に遭遇した場所、天気、家族の状況等を変えながら、様々な対応（行動）策を考えている。

### 3 防災教育の実践

- (1)防災教育を通して育成したい資質・能力
  - ・的確な防災及び減災行動がとることができる判断力
  - ・火山に対する正しい知識
- (2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要
  - ・噴火による災害の状況を想像し、的確に判断し最善の対応（行動）を考える。
- (3)教科等横断的な視点、各教科等との関連
  - ・総合的な学習の時間における「ふるさと学習」で学んだ内容を踏まえる。
  - ・避難訓練と同日に実施する。
- (4)家庭、地域、関係機関との連携
  - ・町職員及び消防署員を外部講師として招聘し、噴火及び避難方法について指導してもらう。
  - ・PTA活動でも防災研修を実施し、家庭内で防災について話し合える環境をつくる。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
<b>導入</b> ・ふるさと学習の振り返り ・避難対応の違いの確認	噴火が起きたとき、自分たちが取るべき行動には何があるか考えよう。 ・ふるさと学習で学んだ前回の噴火での避難対応について振り返る。 ・時間や場所等によって、どのような避難対応が想定できるかを話し合う。
<b>展開</b> ・自分ごととして想定した対応策の検討	様々な状況を想定して、自分たちが取るべき行動を具体的に考えよう。 ・自分が「こんな時に噴火が起きてほしくない」と思う状況での対応の具体をシミュレーションする。 ・天気や気温、家族の状況など、新たな条件を加味して再検討する。
<b>まとめ</b> ・交流 ・学習の振り返り	それぞれが想定した状況での避難対応について振り返ろう。 ・各自が想定した避難対応を交流し合い、よい点や工夫を共有する。 ・日頃から噴火に対する意識をもつことや備えをしておく必要性を確認する。

# 中学校

## 災害時に備えた安全な

## 町づくりとその取組

子どもたちの学び

- ・自校の校舎が避難所になった場合を想定し、「何ができるか」、「何が必要になるか」、「どのような配慮が求められるか」等の体験を通して、行動の仕方を考え、自ら災害発生時における地域の取組に参画しようとする態度を育てることができました。

### 実践① 避難所開設時における必要な配慮や健康を保つ避難生活を学ぶ



日本赤十字北海道看護大学教授  
根本昌宏氏による講義

・「多くの避難所で見られた課題を実際に体験することで、必要なことが見えてきます。」



ブルーシート上に寝る体験

実際に全国の避難所で見られる課題、被災者の声や長期の避難生活に必要な配慮等、健康を保つ避難生活について考えることができるようにする。

- ・命を守る避難行動と健康を保つ避難生活に係る講義を通し、避難所開設時に求められることについて考えることができた。
- ・床からの冷たさや振動、床に近いことによる不衛生さ等の課題に気付くことができた。

#### ●指導のポイント

- ・被災者の声、災害関連死や感染症の危険等について理解を深めることで、避難生活で起こる問題点を実感できるようにする。

### 実践② 長期的な避難生活を見越し、自分たちができることを考える



協力して段ボールベッドを作成する様子



・「繋げると4人で寝ることができたので、家族のスペースにできそうです。」

避難生活において求められる支援を、中学生が実際に体験することを通して、避難所を開設する際に自分たちができることを考える。

- ・段ボールベッドの作成を通じて、強度や床からの高さを知り、「腰をかけやすい高さであること」、「温かいこと」、「繋げることで家族のスペースになること」等に気付くことができた。

#### ●指導のポイント

- ・長期的な避難生活で求められることを知り、被災した方々が直面する困難さ等を回避できるよう避難所開設時に自分たちに何ができるか、自分たちができる配慮は何か考えられるようにする。



## ●学習指導案

学 校 名	訓子府町立訓子府中学校		
対象学年・学級	全学年	対 象 生 徒 数	116 名
科目／単元名	総合的な学習の時間		

### 1 本時のねらい

○避難所開設時に求められることについての探究的な学習に、主体的・協働的に取り組むとともに、行動の仕方を考え、自ら災害発生時における地域の取組に参画しようとする態度を育てる。

### 2 評価の観点

○長期滞在する被災者の立場にたち、実際の場面を想定して実習を進めることができる。  
○与えられた資料、限られた時間、決められた人数の中で、協力して実習を進めることができる。

### 3 防災教育の実践

(1)防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・地域を支える一員としての自覚が芽生え、地域をよりよくしようとする力を養う。
- ・災害発生時の避難生活での課題や生活面での困難さを知ること、関係する他者を想像し、自分に何ができるのか、思慮を巡らせ行動できる力を養う。

(2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・避難所の開設に係る実習を通して、自分たちが手伝えることや、自分たちにできる配慮について、班ごとに話し合い、自分たちの意見をまとめる。

(3)教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・中学校理科「生命を維持する働き」における血液循環の働きの内容に準じて学習を行う。
- ・中学校保健体育科「感染症の予防」の内容に準じて学習を行う。

(4)家庭、地域、関係機関との連携

- ・医療関係者や教育委員会CSコーディネーターの協力を得た。
- ・役場から町の防災倉庫に保管されている段ボールベッド等を借用した。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
導入 ・避難所開設に係る講義 (課題の発見)	避難所開設時に求められることについて考えよう。 ・これまでの災害時に開設された避難所での課題や被災者の声を知るとともに、災害関連死や感染症の問題等の現状を知り、避難所開設時に求められることについて考える。
展開 ・課題解決に向けた実践	避難所開設に係る実習を通して、課題や生活面での困難さについて知ろう。 ・広げたブルーシートの上で寝ることで、ブルーシートがすれる音、床の冷たさ、床から伝わる足音、ほこりが巻き上がる点等の課題を知る。 ・段ボールベッドを組み立てたり、繋げて、家族用の広いスペースを作ったりすることで、段ボールベッドの活用方法について考える。
まとめ ・学習の振り返り	避難所開設に係る実習について振り返ろう。 ・避難所を開設するにあたり、自分たちが手伝えること、自分たちにできる配慮等について考え、班ごとにまとめる。

# 中学校

## 地域の一員として自分の役割を 考える「防災学習」

子どもたちの学び

- ・地域の防災対策の課題について考える活動を通して、避難所生活や避難所運営を自分事として捉えました。
- ・津波の映像の視聴から津波の恐ろしさについて学び、津波発生時における迅速な避難の重要性に改めて気付きました。

### 実践① 地域の一員としての自分の役割（共助）の自覚



「災害時に自分が求められている役割が分かりました。」「『Doはぐ』から経験したことを今後に生かしたいです。」

「Doはぐ」を活用し、避難所運営を疑似体験することで、災害発生時において、自分たちが取るべき行動などを考え、地域の一員としての自分の役割を自覚できるようにする。

- ・第3学年の生徒がリーダーとなり、取組を実施する。
- ・学校近郊のトレーニングセンターを避難所として想定し、避難を受け入れる人の立場で、地域の防災対策について考える。

#### ●指導のポイント

- ・「Doはぐ」を活用して、保護者、地域住民、教職員と一緒にそれぞれの立場を踏まえて災害時にできることを協議することで、地域の一員としての自分の役割を自覚できるようにする。
- ・地域の実情に合わせた題材で話し合うことで、避難所生活や避難所運営を自分事として捉えられるようにする。

### 実践② 生徒に防災の必要感（自助）を感じさせる指導



「霧多布が津波に飲み込まれる動画を見て、悲しいと思った反面、実際に津波が発生した際にどのように行動したらよいのかについて考えさせられました。」



大地震を想定した避難訓練や初期消火体験、VRシミュレーション映像の視聴から、災害時に自分たちが取るべき行動などについて学ぶことで、生徒が防災の必要性を感じられるようにする。

- ・大地震を想定した避難訓練や初期消火活動を通じて、自らできる避難行動について考える。
- ・自然の脅威によるVRシミュレーション映像の視聴を通じて、災害時における自分の身の守り方について考える。

#### ●指導のポイント

- ・実際に地震が起こった際の想定がしやすいように身近な題材のシミュレーション映像を活用することで視覚的にイメージできるようにする。
- ・自然による脅威が身近な存在であることに気付かせることで、防災意識を高めるようにする。

## ●学習指導案

学 校 名	浜中町立茶内中学校		
対象学年・学級	全学年	対 象 生 徒 数	46 名
科目／単元名	特別活動／災害における避難行動と地域の一員としての役割		

### 1 本時のねらい

- 自然災害に対する正しい知識を身に付け、自ら考え、判断し、命を守るために行動することができる。
- 地域における自身の役割を自覚し、地域住民や関係機関と連携して他者へ支援することができる。

### 2 評価の観点

- 地震による火災や津波の発生から身を守るための避難行動について考えることができる。
- 災害発生時の自身の行動について、地域住民や関係機関とのつながりの中で考えることができる。

### 3 防災教育の実践

#### (1)防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・様々な自然災害等の防災意識と危機意識を育み、自らの命や他者の命を守るために必要な知識や技能を身に付けること。

#### (2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・災害時の避難行動について知るとともに、地域の一員としてできることを考える。

#### (3)教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・理科「自然の恵みと火山災害・地震災害について」、「地域の自然災害について」、社会「日本の様々な地域」等の学習内容と関連付けた学習活動とする。

#### (4)家庭、地域、関係機関との連携

- ・保護者及び地域住民とともに「Dohaku」を活用することにより、地域の実情に合った避難所の運営について様々な視点から実践的に考えることができるようにする。
- ・町役場の防災危機対策担当者を講師として、津波映像などのVRシミュレーション映像を生徒に視聴させたりすることにより、生徒が災害に対する備えについて自分事として捉えられるようにする。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
<b>導入</b> ・避難行動 ・消火訓練（自助）	<b>自分の身を守るための適切な避難行動について考えよう。</b> ・清掃活動中に、大地震を想定した避難訓練を実施し、消火活動を体験するとともに、地震による火災発生に対する避難行動について考える。
<b>展開</b> ・町内での地震、津波シミュレーション ・Dohaku（共助）	<b>避難所における自分たちの役割を考えよう。</b> ・ゲストティーチャーからの説明やVRシミュレーション映像の視聴により、災害時の自分の身の守り方について考える。 ・「Dohaku」を活用した避難所運営の疑似体験を通して、自分の役割を想定しながら、よりよい避難所の運営について考える。
<b>まとめ</b> ・まとめの説明 ・振り返り	<b>1日防災学校を振り返ろう。</b> ・グループで話し合われた内容について発表・交流をする。 ・ゲストティーチャーから本時のまとめの説明を受ける。 ・日常の備えや避難行動の大切さについて振り返る。